

令和6年度
県民総合体育大会兼
国民スポーツ大会茨城県大会
(銃剣道競技)

とき 令和 6年 6月 22日 (土)

ところ 茨城県立武道館

主催 茨 城 県

茨城県教育委員会

(公財) 茨城県スポーツ協会

主管 茨城県銃剣道連盟

茨城県高等学校体育連盟

日本の武徳

銃剣道修行の指標

銃剣道の修行は、たゆまない努力によって心身を鍛錬陶冶し、規律を守り、礼節を尊び、信義を重んずる等社会人として必要な道徳性を高めもって

正しく、

明るく、

強く、

逞しい、

人間形成を目指して精進するものである。

銃剣道の本旨

- 第一 銃剣道は、日本の伝統的武道の一つである槍術を源流とする武道である。
- 第二 銃剣道は、武道の美風である誠実・礼節・勇気・質実剛健・克己心等を徳目として練磨し、社会に有為な人間形成を目標とするものである。
- 第三 銃剣道は「突く・引く・押す・打つ・かわす・払う・跳ぶ」等の身体活動を通して心身を鍛え、健康で豊かな社会生活を営む基盤となる国民の「健康体力づくりに貢献しようとする国民体育・スポーツの一面を有している。
- 第四 銃剣道は技術が単純平易でかつ、安全に行えるが、その真髓を極めるには奥行きが深く、青少年が健全な心身を鍛錬する段階から、中高年者が生涯を通して親しみ楽しむことのできるスポーツである。
- 第五 銃剣道は、木銃を構えて相対した両者が、定められた部位に対する「突き・抜き」の一連の動作で相手を制することによって勝敗を競う競技である。木銃を振り上げ、振り下ろして相手を打撃する操作は、相手の木銃を「打ち払う」場合以外は用いない。
- 第六 銃剣道は稽古および試合を通して、知・情・意のバランスのとれた発達を図り、社会的適応性を育成し、心肺機能・筋力・俊敏性および持久力を高めることができる。
- 第七 銃剣道は木銃を用いて競技するものであるから、身体の安全と危害予防のために、定められた稽古着および防具を着用して実施する。

令和6年度県民総合体育大会兼国民スポーツ大会茨城大会
(銃剣道競技) 実施要項

(成年・少年の部)

- 1 日 時 令和6年6月22日(土) 09:00～16:00
- 2 場 所 県立武道館(水戸市新原2-11-1 TEL・FAX 029-251-8444)
- 3 資 格 本県内に居住している者で次の年齢基準による

種 別 区 分		年 齢 基 準
少 年	高校生	高校生在学中の者(同年代の者も含む)
	中学生	中学校在学中の者
	小学生	小学校在学中の者
成年	男	18才以上 平成18年4月1日以前に生まれた者
	女	

4 競技要領

- (1) 試合は少年及び成年(男、女)の部ごとに行う。
- (2) 試合形式はトーナメント戦及びリーグ戦とし、参加人員により詳細は決定する。
- (3) 試合時間は、3分及び5分とし、勝負が決しない場合は「判定」による。
- (4) 試合形式によるが、トーナメント戦となった場合、準決勝・決勝は判定によらず、延長戦を行う場合あり。

5 申込締切り期日及び大会参加費について

- (1) 選手の申込みは別添の参加申込書により、令和6年5月26日(金)までに茨城県銃剣道連盟事務局に申込み。

【申し込み先】

〒312-0042 ひたちなか市勝倉3433 第1中隊

茨城県銃剣道連盟事務局 担当 仲田 大作 宛 TEL 090-8227-5543

- (2) 大会参加料 選手1名につき1,000円
- (3) 大会に参加する選手については、傷害保険に加入しておく。

6 大会審判規則

- (1) 審判員は本連盟のA、B審判員を基準とする。
- (2) 審判員は「銃剣道試合教則、審判規則及び細則」及び大会要項に従い勝敗を決定する。
- (3) 審判員の構成は主審1名・副審2名をもって組織する。
- (4) 審判員の服装は銃剣道試合教則・審判規則及び細則30条による。

7 その他

- (1) 当日昼食(弁当)を申し込む場合、「弁当申込表」により申し込む。
- (2) 大会中止等の連絡は事務局より、各支部へ連絡する。

大会次第

開館

8時

審判・監督会議

8時45分

1 開会式

9時15分

- (1) 開会宣言
- (2) 国旗に礼・国歌斉唱
- (3) 大会会長挨拶
- (4) 来賓祝辞・紹介
- (5) 審判長注意
- (6) 選手宣誓 (勝田)竹川選手
- (7) 閉会

2 試合

10時

成年の部

3 閉会式

- (1) 成績発表
- (2) 表彰
- (3) 大会委員長挨拶
- (4) 閉会

※ 細部時間については、総務部長より連絡する。

大 会 役 員

会 長 大井川 和彦

副 会 長 森作 宜民 関 正樹 岡田 裕昭

顧 問 中村 昌平 原 浩道 安藤 真理子 設楽 詠美子 秋山 哲男

大和田 健 黒澤 弘忠 下路 健次郎 中島 成雄 秋山 隆

綿引 憲男 田山 東湖 福田 太公 会田 真一 葉梨 康弘

下妻 利之 川田 進 葉梨 衛 黒沢 豊 白田 信夫

加藤 明良 清水 定明 大久保 進司 幡谷 定俊 中嶋 鉄郎

遮那 誠一 水田 重則 西内 博 中川 喜久治 西條 昌良

新谷 和也 大川 幹雄 岡田 広 井上 忍 堀口 卓司郎

藤原 孝幸 根本 太涛 伊沢 勝徳

委 員 長 藤田 知巳

副 委 員 長 高橋 清 飛田 和宏 秋山 克巳 砂田 和広

委 員 土井 一男 根本 政世士 高橋 勤司 岩間 信雄 鈴木 一美

鈴木 純一 白戸 元文 中川 繁昭 藤咲 厚郎 諏訪 正美

松枝 弘幸 中村 宏 海老澤 正道 川島 正敏 古矢 勲

折本 裕樹 額賀 富雄 小林 博史 宮下 護 廣澤 努

野澤 一実 鬼澤 真寿 大芦 昌治 高橋 義道 木内 広史

後藤 裕一 鴨志田 勝次 齊藤 克朗 柴田 淳 中沢 隆一

大塚 雅俊 高橋 昇 地頭菌 薫 萩野谷 豊光 横山 良子

久野 篤 熊澤 善信 河西 徹 久保 正幸 鹿窪 茂

鈴木 但義 福永 広明 鎮目 英俊 直江 良雄 田城 真一

相田 良裕 永盛 圭一 中條 文樹 宮崎 健太 稻見 誠

江連 昌治 中口 直仁 柳田 剛志 大久保 真弓 茂呂 允文

柳瀬 武史 小澤 伸介 大島 遼太郎 塙 秀斗 平澤 誉志幸

竹谷 淳

(順不同敬称略)

大会競技役員

名誉会長	大高 哲男	
大会会長	飯島 寿志	
大会副会長	渡辺 正三 池田 源二	
大会委員長	山口洋次郎	
大会副委員長	長島 敦	
総務部	部長	仲田 大作
	受付・案内	○額賀 教尾 ○竹川 翔太
	進行・放送	仲田 大作
競技運営部	部長	柴山 和久
	採点・記録	倉持 京介 近藤 和輝 猪俣 冬莞
	試合場運営	高橋 悠二 山下 航輝 小山 由伸
審判	審判長	長谷川英昭
	審判員	(主任) 長谷川英昭 岡本 順 鈴木 武 奥山 新一 ○森 靖夫 ○田上 孝也 ○薄井 剛 ○齊藤 正勝 ○金田 和成

○選手兼務の審判は、個人の試合が無い又は終了したならば、審判長の掌握下に入り、審判支援をする。

成年の部 (予選リーグ)

第1リーグ		1	2	3	勝 数	本 数	順 位
		森 靖夫	伊東 真矢	竹川 翔太			
1	森 靖夫						
2	伊東 真矢						
3	竹川 翔太						

1-2、2-3、1-3

第2リーグ		1	2	3	4	勝 数	本 数	順 位
		田上 孝也	飛田 洋介	齊藤 正勝	村上 凌汰			
1	田上 孝也							
2	飛田 洋介							
3	齊藤 正勝							
4	村上 凌汰							

1-2、3-4、1-4、2-3、2-4、1-3

成年の部 (予選リーグ)

(一) 選手 階級別

第3リーグ		1	2	3	4	勝 数	本 数	順 位
		額賀 教尾	奥山 千秋	薄井 剛	川口 一也			
1	額賀 教尾							
2	奥山 千秋							
3	薄井 剛							
4	川口 一也							

1-2、3-4、1-4、2-3、2-4、1-3

第4リーグ		1	2	3	4	勝 数	本 数	順 位
		山下 大貴	星山 和也	金田 和成	石田 勝也			
1	山下 大貴							
2	星山 和也							
3	金田 和成							
4	石田 勝也							

1-2、3-4、1-4、2-3、2-4、1-3

選 手 名 簿

成年の部

NO	氏 名	称号・段位	所 属	備 考
1	齊藤 正勝	5 段	陸自 勝田駐屯地	
2	額賀 教尾	5 段	同 上	
3	竹川 翔太	5 段	同 上	
4	金田 和成	5 段	同 上	
5	飛田 洋介	4 段	同 上	
6	星山 和也	2 段	同 上	
7	川口 一也	初段	同 上	
8	森 靖夫	錬士 7 段	陸自 古河駐屯地	
9	田上 孝也	錬士 6 段	同 上	
10	薄井 剛	錬士 6 段	同 上	
11	村上 凌汰	5 段	同 上	
12	山下 大貴	5 段	同 上	
13	奥山 千秋	初段	同 上	
14	石田 勝也	初段	同 上	
15	伊東 真矢	2 段	水戸支部	